

『桑高百年』の史資料整理

桑高同窓会長 西羽 晃

桑名高校の創立百周年の記念事業が幾つか行われたが、そのうちの一つである記念誌『桑高百年』の編集に私は携わった。当時の校長先生のご配慮で、現職教員(桑高同窓生)1名を配置して頂き、空き教室を一つ提供してもらった。まず史資料の収集が必要であり、2006(平成18)年11月9日に桑名市役所の記者クラブで新聞各社に記事を依頼した。あちこちにも声をかけた。私自身も桑名市立中央図書館、桑名市立ふるさと文学館(多度)、桑名市議会事務局をはじめ、国立公文書館本館(東京)、同分館(つくば市)、三重大学図書館、同教育学部同窓会事務局、三重県史編さん室、三重県立図書館、愛知県図書館、四日市市立図書館へ出張してコピーを取って来たり、いなべ市の旧家を訪ねたりした。また国立国会図書館からコピーを取り寄せた。

同窓生7名と学校側からは多数の教員が編集・執筆にあたり、2010(平成22)年7月末に完成した。それにともない、「桑高百年展」を桑名市博物館で同年8月4日から8日まで行った。収集した史資料の総点数は不詳だが、展示したのは251点であった。貴重な史資料が多く、桑名郡立高等女学校の第1回卒業生の卒業証書や優等賞の証明書もあった(写真参照)。古くなっている史資料は傷みやすく取扱いに苦慮した。『桑高新聞』の第1号(1949=昭和24年11月13日付)は戦後の時代で紙質も悪く、すぐ破れるのでとくに困った。



これら収集した史資料は『桑高百年』を編集・発行した後は、そのまま乱雑に資料室に積込まれたままで放置されている。同窓会としては百周年記念事業として、史資料を収納するケースを負担するように計画していたが、実現していない。

問題は収納ケースだけでなく、分類して整理し、史資料の目録を作成し、すぐに取り出しできることが大切である。それできなければ、折角の史資料が宝の持ち腐れになるし、失われてしまったり、経年と共に朽ちてしまう恐れがある。後世へ伝えるためには、保存処理もしたいところだ。

私は『桑名市史』別編、『三雲町史』『多度町史』などの編さんに関わり、また他の市町史の編さん状況も見聞しているが、発行が済むと、収集した史資料は殆どが放置されたままとなり、担当者も居なくなると、紛失しても判らなくなる。『桑高百年』の史資料も将来活用されるように整理・整頓しておくのは「今でしょ」。